

## 今夏(7、8月)の電力需給実績について

平成28年9月28日  
北陸電力株式会社

当社は、今夏の当社エリアにおける電力需給実績について取りまとめましたので、お知らせいたします。

当社は、志賀原子力発電所の運転停止が継続する厳しい需給状況の中、安定供給の確保に努めてまいりました。

今夏の需給については、渇水の影響による水力発電の減少や、クラゲ襲来に伴う設備保護のための火力発電の出力抑制・計画外停止などもあり、一時的に予備率が低下する局面もありましたが、お客さまによる節電が定着したことや供給力確保に努めたことなどにより、安定した電気をお届けすることができました。

今後も気温影響や大型電源のトラブルなどの不確定要素を考慮すると、厳しい需給状況となるため、当社としては電気設備の保守点検を確実に実施する等、引き続き電力の安定供給に努めてまいります。

お客さまにおかれましては、引き続き電気の効率的なご使用にご協力をお願い申し上げます。

以 上

別紙：今夏の電力需給実績の概要

# 今夏の電力需給実績の概要

2016年9月28日  
北陸電力株式会社

## ～ 需給実績の取りまとめにあたっての変更点 ～

- ① 2016年4月からの事業ライセンス制導入に伴い、「当社（単独）の電力需給実績」から「北陸エリアの電力需給実績（当社および他電気事業者を含む）」に変更。
- ② でんき予報の公表内容の変更（各社統一）に合わせ、これまでの発電端から送電端に変更。  
  
＜参考＞ 発電端：発電機が発電した電力。  
送電端：発電端電力から所内電力（発電所の運転に必要な電力）を差し引いた電力
- ③ 本資料においても、過去の実績や当初の今夏見通しについても全てエリア送電端で記載。

# 1. 今夏の需給バランス

1

- 今夏(7、8月)の北陸エリアの最大電力は、8月25日(木)14時~15時の497万kW。
- 当初の需給見通しでは猛暑となった場合の最大電力を517万kW、平年並みの気温であった場合の最大電力を495万kWと想定。
- 供給面では、渇水による水力発電量の減少等により、同日の供給力は552万kWと、当初見通しより26万kW下回ったものの、11%の予備率を確保。
- 今夏の北陸エリアにおいて予備率が最も低かったのは8月4日(木)の6.3%。

[万kW]

	8月見通し		最大電力発生日 8/25 (木) 実績	予備率最小日 8/4 (木) 実績
	猛暑ケース	平温ケース		
供給力	578	578	552	494
最大電力	517	495	497	465
予備力	61	83	55	29
予備率	11.8%	16.8%	11.0%	6.3%

※見通しにおける「平温ケース」は平成28年度供給計画値、「猛暑ケース」は供給計画値を基に猛暑による需要増を考慮

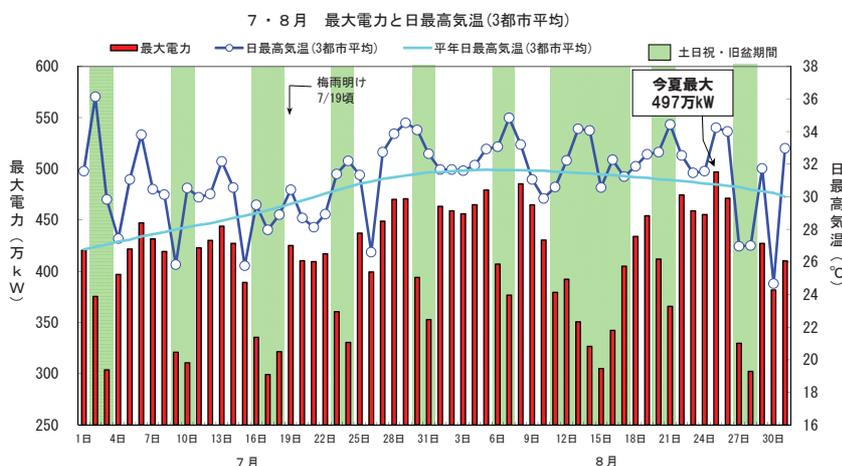
※実績については一部推計値含む

# 2. 最大電力および最高気温の推移 (7月~8月)

2

- 8月は真夏日(日最高気温30℃以上)が多く、平均気温は平年より高かったものの、気温の高い日が土日や旧盆期間中に重なったことや、猛暑日(同35℃以上)が少なかったことから、今夏の最大電力は497万kWと猛暑想定需要を下回った。

<最大電力(エリア送電端)と気温の推移(3都市平均)>



■猛暑日(最高気温35℃以上)

	7月	8月	計
H28	1.7日	1.7日	3.4日
H27	4.3日	3.0日	7.3日
平年	1.2日	2.9日	4.1日

■真夏日(最高気温30℃以上)

	7月	8月	計
H28	17.7日	27.0日	44.7日
H27	17.3日	19.7日	37.0日
平年	13.7日	20.8日	34.5日

■平均気温比較

	7月平均気温	8月平均気温
H28	26.2℃	27.4℃
H27	26.1℃	26.9℃
平年	25.3℃	26.9℃

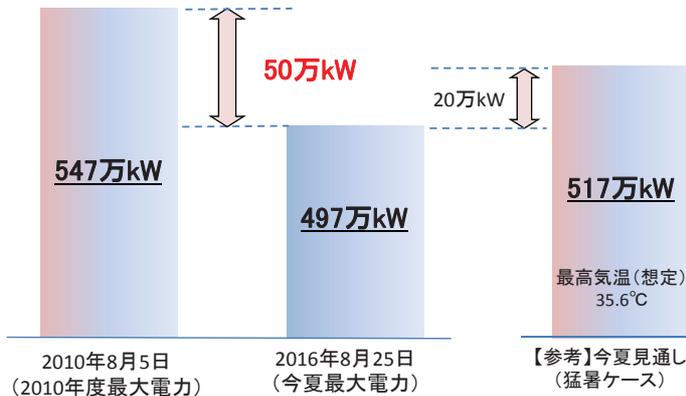
※猛暑日、真夏日、平均気温は3都市(富山市・金沢市・福井市)平均

### 3. 2010年度最大電力実績と今夏最大電力との比較

3

- 猛暑であった2010年度最大電力実績(547万kW)と今夏最大電力(497万kW)との差は▲50万kW(節電影響▲29万kW程度、景気影響+3万kW、気象影響等▲24万kW)であった。
- 節電については、今夏も▲29万kW(当初見通し通り)の節電効果があったことから、節電が定着していると考えられる。

＜2010年度最大電力実績と今夏最大電力との比較＞



■最大電力低下(2010年度・当初見通し比)の内訳

	2010年実績と今夏実績の差	＜参考＞ 当初見通しと今夏実績の差
節電影響※	▲29万kW程度	0万kW
景気影響※	+3万kW程度	+3万kW程度
気象影響等	▲24万kW程度	▲23万kW程度

■過去の夏季最大電力に対する節電効果

H27	H26	H25
▲29万kW程度	▲29万kW程度	▲29万kW程度

※：節電影響、景気影響は最大電力上位3日平均で分析した数値

### 4. 予備率低下日の状況

4

- 7月1日～8月31日の平日において、予備率が8%未満であったのは6日間。
- 今夏は渇水の影響により供給力が平年より低めに推移。
- クラゲが襲来し、設備保護のために火力発電所の出力を抑制せざるを得なかった日数も昨年より増加。
- 予備率が最も低かった8月4日(6.3%)はクラゲ襲来による火力発電の出力抑制(▲63万kW)により供給力が低下。また、7月29日には、富山新港火力発電所1号機が除塵装置の能力を上回るクラゲの襲来により計画外停止するなど、他の発電機の出力抑制と合わせて供給力が91万kWも低下(予備率 6.7%)。
- 両日とも需要が比較的良かったことや、いっそうの供給力確保に努めたことにより、安定した電気をお届けすることができたものの、気象影響による需要の増大や、別の電源トラブルが重なると、さらに厳しい需給状況となる可能性があった。

■予備率の実績(7、8月の平日)

	5%未満	5%以上 8%未満
H28	0日	6日
H27	0日	0日
H26	0日	3日

■出水率

	7月	8月
H28	83%	79%
H27	92%	90%
H26	99%	136%

■クラゲによる出力抑制日数および月最大の抑制量

	7月	8月	計
H28	20日 91万kW	6日 63万kW	26日
H27	10日 67万kW	6日 21万kW	16日

## <参考>クラゲによる火力発電の出力抑制・計画外停止の理由

- 火力発電所において、発電に使用した蒸気を冷却するための海水(冷却水)の取水口にクラゲが大量流入すると、海水中のゴミ等を取り除くための除塵装置に過度な負担がかかり、装置が故障する恐れがあるため、除塵装置でクラゲを取り除ける量まで冷却水の取水量を減少させ、発電機出力を抑制して運転せざるを得ない。
- さらに、除塵装置の能力を上回る大量のクラゲが流入した場合には、運転に必要な冷却水の取水量を確保できなくなり、冷却水取水設備やタービン設備が故障する恐れがあるため、発電を停止せざるを得なくなる。

